

週刊 SSH（6月13日）

I T E R 講演会

本校のフランスサイエンス研修では「エネルギー」をテーマとし、フランスの発電施設を訪問させていただいています。今回は、訪問施設の一つである I T E R（核融合実験炉）の建設プロジェクト室長大前敬祥氏にフランスから講演をしていただきました。お茶の水女子大学附属高等学校の生徒さんや早稲田高等学校の先生方には対面で、大阪からは府立天王寺高等学校の生徒さんもオンラインで参加していただき、一緒に核融合発電や国際共同プロジェクトについて、国際機関で働くことなどについてうかがったり、考えたりしました。質問が途切れず、非常に充実した講演会となりました。

ITER プロジェクトのすごいところとして、人類を新たなステージへ本気でもっていこうとする大前氏をはじめとした人々の熱意があるとおもいました。ITER は何億度という高温のプラズマをトカマクの中に封じ込めるという方法で発電するのですが、このような一見すると人の手には不可能のように見えることでも、今は日本の jt-60 がプラズマの持続に成功させるところまでできていて、不可能に立ち向かった人々の努力とが感じられます。また現在 ITER は数十か国が加盟する巨大な国際事業となっていて、驚くべきことに、戦争中のロシアも事業に参加しており、ITER は国際的でありながら政治とは完全に分断された事業として進行しています。このように ITER は人々が成功を目指して動いている機関で、大前氏からも ITER に携わっていることの熱意や誇りが感じられ、感動しました。



核融合はこれからの人類を支えていくエネルギーを生み出す技術であり、ITER 計画は核融合エネルギーを実現させるための第一歩です。ITER はコロナ禍にも建設が続けられて、一日でも早く本格的な稼働ができるようにプロジェクトが進められています。また核融合の研究はエネルギー問題の解決だけでなく、医療や宇宙開発などにも活かされており、人類は多くの恩恵を受けています。今回はそんなエネルギー開発の最前線についての貴重なお話を聞くことができ、とても良い経験になりました。

